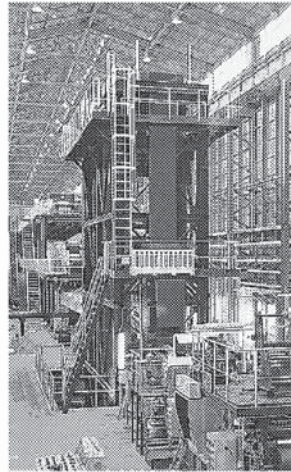


鋼板連続塗装ライン

中外炉、ベトナムで受注

中外炉工業はベトナムで鋼板連続塗装ライン（CCL）を受注した。金額は20億円弱。年産約10万トの中規模ラインで、排ガス処理で高い環境、省エネルギー性能を持つ。鋼板需要が急拡大しているアジア市場だが、省エネなど付加価値を高めた塗装ラインがまだ少ない。今回の受注を弾みにアジアに進出している日系企業や現地資本からの受注拡大を目指す。

20億円、省エネ型



環境対応型でアジア需要を開拓する

発注者は丸一鋼管のベトナム子会社、サンスコ社（ビンドン省）。2012年7月に着工し、13年春の納期を目指す。主に屋根、壁など建材のカラー鋼板を連続塗装する用途に使われる見通し。将来は家電、自動車用鋼板用途にも転用できる仕様にするという。

蓄熱式排ガス処理装置（RTO）という省エネ機能を付けたのが特徴。排ガスに含まれる有機溶剤を効率的に除去できる。排ガス処理には常時バーナーをたいて、有機溶剤を取り除く方法があるが、RTOは最初にたかただけで継続的に除去でき、燃料使用量を75%削減できる。

既に日本では一般的だが、アジアでは導入が遅れている。今後、アジアでも環境、省エネ意識が高まるとし、RTOを付けたCCLのニーズは高まるとみている。同社は1960年代から国内外で約100基のCCLの納入実績がある。CCLは中外炉工業の屋台骨である「エネルギー部門」に入る。11年3月期の連結営業利益38億円のうち同部門は82%を占める。高付加価値機能を盛り込んだ製品で伸び盛りのアジア市場を開拓し、さらなる利益成長を目指す。